

数々の偉人を支えた新宿中村屋の創業者

相馬 愛蔵(そうま あいぞう) 穂高 白金 出身

〈相馬愛蔵が活躍した時代〉1870〈明治3〉年～1954〈昭和29〉年 享年79歳

明治					大正		昭和
3	24	30	41	44	4	5	29
穂高白金に誕生	井口喜源治と親交を結ぶ	星良(後の黒光)と結婚する	彫刻家、荻原碌山が頻りに中村屋を訪問	画家、中村彝(つね)が中村屋裏のアトリエに住む	インドの革命家、ラス・ビハリ・ボースをかくまう	ロシアの詩人、エロシエンコを援助	愛蔵逝去

世のため人のためにパンを売り、夫婦で国際的愛に生きた商人。



なりわい
おのれの生業を通じて文化・国家に貢献する。

「穂高ものがたり」より

社会が「公平なり」と認める儲けしか頂戴しないで、真面目にやっていく店は、自然と繁盛するものである。

愛蔵著「一商人として」より

経営者としても人間としても一流だった相馬愛蔵

日本の三大菓子パン(アンパン、ジャムパン、クリームパン)のうちクリームパンを発明したのが相馬愛蔵。また、良い品を安く売る商法をとり、関東大震災で難民となった人々が新宿へと逃れてきたときには、便乗して高額な商品売りつけるようなことをせず、安価なパンなどを『奉仕パン』『地震饅頭』と名付けて提供し、人々の空腹を満たした。新宿中村屋が現在も繁盛している理由は、このような愛蔵の志が今も生きているからであろう。

☆相馬愛蔵・妻黒光が支えた偉人たち☆



井口喜源治

私は数々の評論家や芸術家を輩出した「研成義塾」の塾頭。もとは松本開智小学校の教師でしたが、キリスト教を広めたとして校長をはじめとする教師たちから排斥されてしまいました。

そこで村内の有志らに声をかけ、「研成義塾」を起こしてくれたのが愛蔵さんでした。



荻原碌山

私は日本における近代彫刻の第一人者。黒光さんが東京へ持参した絵に感銘を受け、芸術家の道を目指しました。愛蔵さんからは金銭面をはじめとするさまざまな援助をしてもらいました。代表作には「抗夫」「女」などがあります。30歳でこの世を去ってしまいましたが、後の彫刻界にも影響を与えることができました。



ラス・ビハリ・ボース

私はインド独立運動で活動した革命家。1914年に日本に亡命してきたときに逃げ延びた先が、愛蔵さんが創設した新宿中村屋でした。

それから愛蔵さん夫妻は3ヶ月半もの間、命がけで私をかくまってくれました。



中村彝

私は画家。代表作には「巖」「女」などがあり、賞もいただくことができました。愛蔵さんが創設した新宿中村屋裏のアトリエで制作活動を続けさせてもらい、絵のモデルとなった詩人のエロシエンコさんと出会ったのもそのアトリエです。



相馬黒光

当面の危機を脱出した時の痛快さは筆紙の尽すところではありません。菩薩の方便と感謝すべきでございます。

黒光著「黙移」より

参考文献

- 「一商人として 所信と体験」 相馬愛蔵著 1981 郷土出版社
- 「黙移」 相馬黒光著 1981 郷土出版社
- 「がいどぶっく・安曇野の里『穂高ものがたり』」 中島博昭 1977 出版安曇野